



2015 ~ 2016 年度  
R I テーマ

Be a gift to the world  
世界へのプレゼントになろう

世界へのプレゼントになろう

国際ロータリー会長

K. R. ラビンドラン (国籍・スリランカ)

2720 地区

## 別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分  
ところ 別府亀の井ホテル 〒874-0936 別府市中央町5-17  
TEL (0977) 22-3301 FAX 21-1232  
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F  
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000  
FAX (0977) 23-9019  
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>  
E-mail: info@beppu4rc.jp

理事	平野 教康	理事	西馬 良和	役員	会長	平野 教康	S A A	前田 哲矢
〃	梶原 和朗	〃	村津 忠久	副会長	梶原 和朗	直前会長	前田 哲矢	
〃	後藤 隆	〃	亀井 孝	幹事	佐々木久宜			
〃	森園 伸也			会計	衛藤 秀子			

VOL. 28 - 10  
2015年9月15日

## 第 1249 回 例会

会報委員長 堀 由美

◆点 鐘 12:30

◆R S 別府中央R.C.の歌

◆唱 歌 月

◆ゲ ス ト 浦野 洋史氏  
(有限会社別府保健プラザ)

◆出席報告 委員長 衛藤 秀子

本日 の 出 席	会 員 総 数	27 名
	出 席 者	17 名
	事前メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	2 名
前 々 回 の 訂 正 9/1	出 席 率	83.33 %
	事後メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	3 名
	修 正 出 席 率	87.50 %
連 続 - 回		
通 算 749 回		100 %

### 会長の時間

会長 平野 教康

皆さん、こんにちは会長の平野です。

本日はゲストに有限会社別府保険プラザの浦野洋史社長にお越し頂きました。ありがとうございます。別府中央ロータリークラブの例会を楽しんでください。

また、本日の卓話は当会員の土屋様に古物骨董品についてお話いただけるので興味津々です。宜しくお願いいたします。

### ・メイクアップ

事前

事後 佐々木 (米山奨学セミナー)

欠席 堀、梶原、亀井、村津、中尾、大島、  
島田、梅津

出席免除 溝部、木村

### 幹事報告

佐々木久宜

#### —基本的教育と識字率向上月間—

1. 本日の卓話

「古美術業について」 土谷 昌志 会員



2. 本日のゲスト  
浦野 洋史氏 (有限会社 別府保険プラザ)
3. お祝い (次週休会・次々週夜例会の為、本日3週分お祝いたします。)
- 会員誕生日 近藤 賢司会員 (9月18日)  
※記念品をお渡しいたします。  
大島由美子会員 (9月23日)  
※ご自宅にお花が届きます。
- 配偶者誕生日 前田れい子さん (9月17日)  
※記念品をお渡しいたします。  
中尾百合子さん (9月17日)  
佐々木景子さん (9月19日)  
梅津 麻美さん (10月1日)  
※記念品をお渡しいたします。
- 皆 勤 村津 忠久会員 (9月12日 = 29年)  
平野 英壽会員 (9月19日 = 26年)  
鳴海 淳郎会員 (9月25日 = 45年)

4. 例会変更のお知らせ

- 大分臨海RC 9月28日(月)の例会は職場例会・新会員歓迎例会の為 同日18:30~ Bar.TIMEに時間・場所変更
- 日出RC 9月29日(火)の例会は、第30回日出RC旗争奪少年野球大会の為 9月27日(日)8:00~日出町黒岩グラウンドに日時・場所変更
- 大分RC 10月6日(火)の例会はリレー・フォー・ライフ例会の為 10月10日(土)に日時・場所変更

5. 次週例会 (9月22日) の予定  
法定休日の為、休会
6. 次々週例会 (9月29日) の予定  
「月見例会」  
日 時 平成27年9月29日 (火) 18:30~  
場 所 割烹旅館 ゆめさき  
※時間・場所を変更して開催いたします。
7. 本日の回覧  
①「別府北RC創立50周年記念式典」出・欠席  
②「月見例会」出・欠席  
③「職場例会」出・欠席  
④ 杵築RC 週報
8. 本日の配付  
① 週報No.1248

スマイルボックス 委員長 近藤 賢司

○平野(教)会員

浦野様、ようこそ別府中央ロータリークラブへ。楽しんで下さい。スマイル。

○土谷会員

本日は卓話をおおせつかわり、少し緊張をしておりますが、一生懸命に務めさせていただきます。みなさん、お手柔らかに！

○佐々木会員

今日はいろいろな仕事ができる勉強になります





す。土谷さん、今日はよろしくお願ひします。

浦野さん、別府中央RCへようこそ。

○森会員

例会に遅れないように？会社から亀の井まで10分で来ました。ストリートレースのようでした。恐ろしかったあ。もうしません！

○森園会員

今日、信号待ちでオカマ掘りました。怪我はないです。良かった。スマイル！

○高宮会員

土屋さんの卓話を楽しみに出席いたしました。頑張ってください。

○衛藤会員

浦野様、ようこそお越し下さいました。どうぞごゆっくりなさってください。

今日の卓話、土谷会員、きっとおもしろいお話と思います。楽しみにしています。

○前田会員

浦野様、いらっしゃいませ。別府中央ロータリークラブの例会、楽しんで下さい。

○木村会員

久しぶりの例会出席です。やはりホームグラウンド、皆さんの顔を見ると何となく嬉しくなりました。

土谷君の卓話を楽しみに来ました。時々やはり出席して元気をもらわなくちゃネ。

○平野(英)会員

木村きぬえさん、久しぶりですね。時々明るい顔を見せて下さいね。

○村津会員

ホームクラブ欠席をお詫びしてスマイル致します。

メーカーは17日に杉の井ホテルでいたします。

○近藤会員

本日は私の誕生日をみんなで祝っていただきありがとうございます。これからも精進して頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

卓話

土谷 昌志

古美術業について

伊万里焼 (いまりやき)

有田 (佐賀県有田町) を中心とする肥前国 (現代の佐賀県および長崎県) で生産された磁器の総称。

有田の製品のほか、三川内焼、波佐見焼なども含む。

日本で初めて国産磁器の製造が開始されたのは17世紀、有田 (佐賀県有田町) においてであった。



1610年代から1630年代頃までの初期製品を陶磁史では「初期伊万里」と称する。

この時期の製品は、白磁に青一色で模様を表した染付磁器が主で、絵付けの前に素焼を行わない「生掛け」技法を用いている点が特色である。

1640年代には有田西部の山辺田窯 (やんべたがま) などで色絵磁器の生産が創始され、国内向けの大皿などの色絵磁器製品が生産された。

1640年頃からは鍋島藩が将軍家・諸大名などへの贈答用高級磁器をもっぱら製造する藩窯が活動を開始。

この藩窯製品を今日、「鍋島様式」あるいは「鍋島焼」と呼んでいる。

中国では1644年に明王朝が滅亡。1656年には清により遷界令が発せられて、商船の航行が禁止され、中国陶磁の輸出が一時途絶えた。このため、それまで中国製の磁器を買い付けていたヨーロッパ諸国が日本へ磁器を注文するようになり、オランダ東インド会社から大量の注文が舞い込んだ。

中国製磁器の輸出が再開されてからは、東南アジア方面の市場は中国製磁器に奪還されたが、ヨーロッパ方面への伊万里焼の輸出は継続した。



1670年代には、素地<sup>そじ</sup>や釉薬が改良され、白磁の地にはほとんど青味のない「濁手」(にごしで)と呼ばれる乳白色の素地<sup>そじ</sup>が作られるようになった。

この濁手の素地<sup>そじ</sup>に色絵で絵画的な文様を表したものを「柿右衛門様式」と称している。

1690年代には染付の素地<sup>そじ</sup>に赤、金などを多用した絵付を施した製品が作られるようになった。

これを「古伊万里金襴手」と称し、この種の様式<sup>そじ</sup>のものがヨーロッパ向けの輸出品となった。



### 唐津焼 (からつやき)

近世初期以来、現在の佐賀県東部・長崎県北部で焼造された陶器の総称。日常雑器から茶器までさまざまな器種があり、作風・技法も多岐にわたる。茶碗は古くから「一楽二萩三唐津」と称されて名高い。

文禄元年から慶長3年(1592年~1598年)に豊臣秀吉による朝鮮半島への出兵、文禄・慶長の役(壬申倭乱<sup>じんしんわらん</sup>)の際、朝鮮半島から同行してきた陶工たちが祖国の技術を伝え、開窯したというのが通説だが、窯跡の調査、消費地での陶片の出土状況などから、唐津焼の創始は文禄・慶長の役よりはやや早く、1580年代に開始されたとみられている。

天正19年(1591年)に没した千利休が所持していた道具の中には奥高麗茶碗があったことが知られている。

長崎県壱岐市の聖母宮(しょうもぐう)には天正20年(1592年)銘のある黒釉四耳壺があり、これが唐津の在銘最古遺品とされている。唐津焼の生産開始は遅くとも1591年以前であることがわかる。

草創期は食器や甕など日用雑器が中心であったが、この頃になると唐津焼の特徴であった質朴<sup>しつぽく</sup>さと侘びの精神<sup>あいま</sup>が相俟って茶の湯道具、皿、鉢、向付(むこうづけ)などが好まれるようになった。桃山時代には茶の湯の名品として知られ、一井戸二楽三唐津(又は一楽二萩三唐津)などと格付けされた。

だが江戸時代に入って鍋島藩は藩内の窯場の整理、統合を断行、それによって窯場は有田に集約されたため、唐津も甚大な影響を被り、多くの窯元が取り壊された。しかし、唐津の茶器は全国でも評判が高かったため、茶陶を焼くための御用窯として存続した。その間の焼き物は幕府にも多数献上品が作られたため、「献上唐津」と呼ばれる。

明治維新によって藩の庇護<sup>ひご</sup>を失った唐津焼は急速に衰退、有田を中心とした磁器の台頭もあって多くの窯元が廃窯となった。だが後の人間国宝、中里無庵が「叩き作り」など伝統的な古唐津の技法を復活させ、再興に成功させた。

### 唐津焼の種類

【絵唐津 朝鮮唐津 斑唐津 三島唐津 粉引唐津 奥高麗 瀬戸唐津 青唐津 黄唐津 彫唐津 刷毛目唐津 櫛目唐津 蛇蠅唐津 二彩唐津】



唐津焼の特徴は李氏朝鮮(一説に、華南)から伝わったとされる伝統的な技法が今に根付いているところである。

蹴轆轤<sup>けろくろ</sup>、叩き作りといった技法は古唐津から伝わる技法で、現在もこの製法を行っている窯がある。

窯は連房式登窯という大がかりな窯を用い1300度の高温で一気に焼き締める。意匠<sup>いしょう</sup>は茶器として名声を馳せただけあって、非常に素朴で、それでいながら独特の渋みがある。